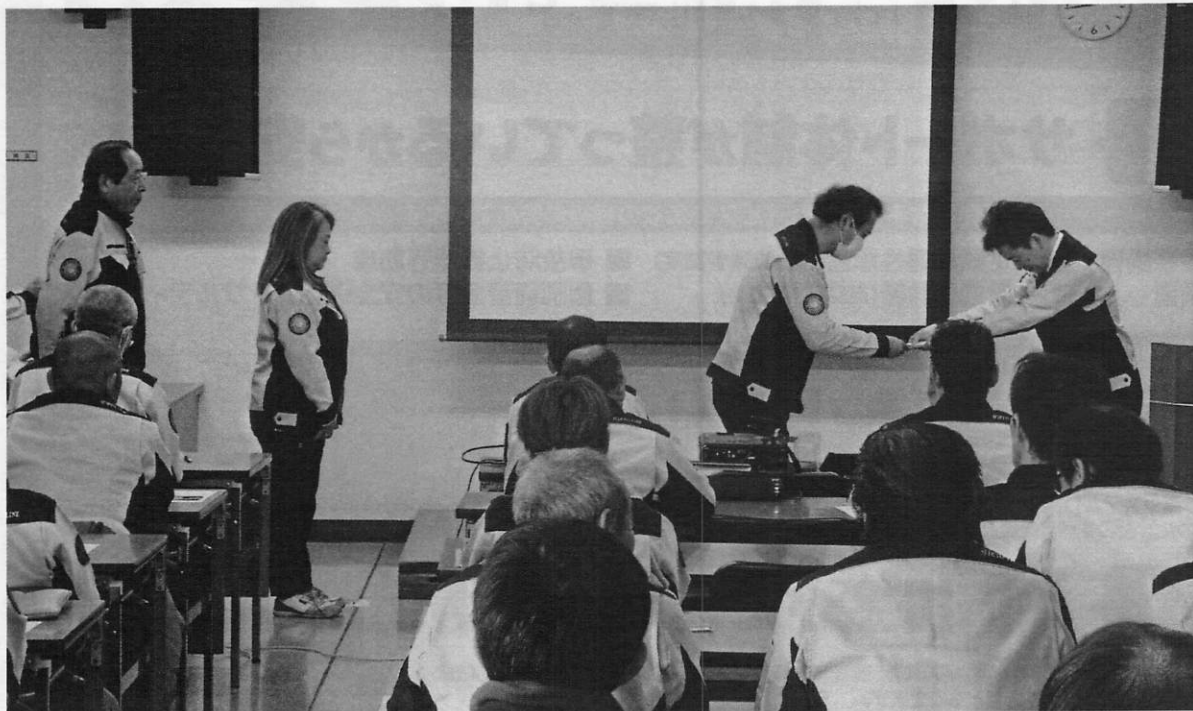


3つの行動指針で変化に対応

生産性向上を目指す セイリヨウライン



(株)セイリヨウライン（幣旗貴行社長、愛知県大府市）は2020年、「己に克つ」「磨きをかける」「相手のために」の3点を行動指針として、社員一人がひとりが責任感を持ち変化に対応できる会社をテーマに生産性アップに取り組む。18日開いた全体会議で幣旗社長が説明した。

幣旗氏は、2019年の活動を振り返りながら気付きとして、「絶対に事故を起こさな」という一人ひとりの「責任感」と「常に変化し続けるための社員の成長」を挙げ、「1年間に色々なことがあった中で、事故を起こさないことがいかに大事か分かったと思う。皆さんの成長が無ければ会社は変化に対応することができず、お客さんから見放されていく。変化できないことは怖いこと」と強調。

これを踏まえて、己に克つには決められたルールを守って、事故は他人事にならないで

自分に置き換え、昨日の自分に負けないで目標を実行するとの意味を込めた。磨きをかけるには、自分の取り組みには自信を持って進め、より良い方法を考えて生産性を上げることと説いた。また、相手のためには、言葉を伝えるのではなく伝わるように思いやり、相手の成長のために言葉を選ぶことを注文。自分の一言で相手が活かされることを明示した。

幣旗氏は「人手不足で欲しい人材が入らず入社しても長く続かないという状況で、どういふ言葉をかけてあげられるかが大事」と熱弁。生産性向上について「働き方改革では労働時間を単純に短くする

全国どこでも
ヨシテナの買取します
 査定無料
 お気軽にご連絡ください。
中古コンテナどっとこむ
<http://www.m-container.com>

のではないけない。今までやってきたことを当たり前と思わず、もっと良い方法がないか考え生産性向上を目指して欲しい」と訴えた。

幣旗良太会長も「安全と物流品質は毎日継続させていかなければならない。全体で良いものを作っても、最後は個人が全体の構造を下支えする。今年はずいぶん個人のレベルアップを図ってもらいたい」と要望した。

幣旗孝司次長は、車両と商品の双方の事故について、19年の傾向を分析。車両前進時の事故が目立つことを注意した。事故防止策として事故発生時の行動手順を示した。社員表彰では、1、9年の長期間無事故を継続するドライバーを表彰。年間社長賞では、総務部の牧田千夏氏が選ばれた。

その後、部門ごとに設定したグループ目標と個人目標を参加者全員で発表した。「レベルアップを図り無事故で過ごしたい」「責任感を持ってがんばりたい」など、目標を掲げた。